

第2章 令和3年中における自殺の概要

1 総数(表1関係)

令和3年中における自殺者の総数は21,007人で、前年に比べ74人(0.4%)減少した。
性別では、男性が13,939人で全体の66.4%を占めた。

2 年齢階級別自殺者数(表2関係)

「50歳代」が3,618人で全体の17.2%を占め、次いで「40歳代」(3,575人、17.0%)、「70歳代」(3,009人、14.3%)、「60歳代」(2,637人、12.6%)の順となっている。

3 職業別自殺者数(表3関係)

「無職者」が11,639人で全体の55.4%を占めて最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」(6,692人、31.9%)、「自営業・家族従業者」(1,298人、6.2%)、「学生・生徒等」(1,031人、4.9%)の順となっており、この順位は前年と同じである。

4 原因・動機別自殺者数(表4関係)

原因・動機が明らかなもののうち、個々の要因別にみると、その原因・動機が「健康問題」にあるものが9,860人で最も多く、次いで「経済・生活問題」(3,376人)、「家庭問題」(3,200人)、「勤務問題」(1,935人)の順となっており、この順位は前年と同じである。

注)自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注)遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を3つまで可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(15,093人)とは一致しない。